



雲仙岳

—火山の恵みと災いを実感できる山—

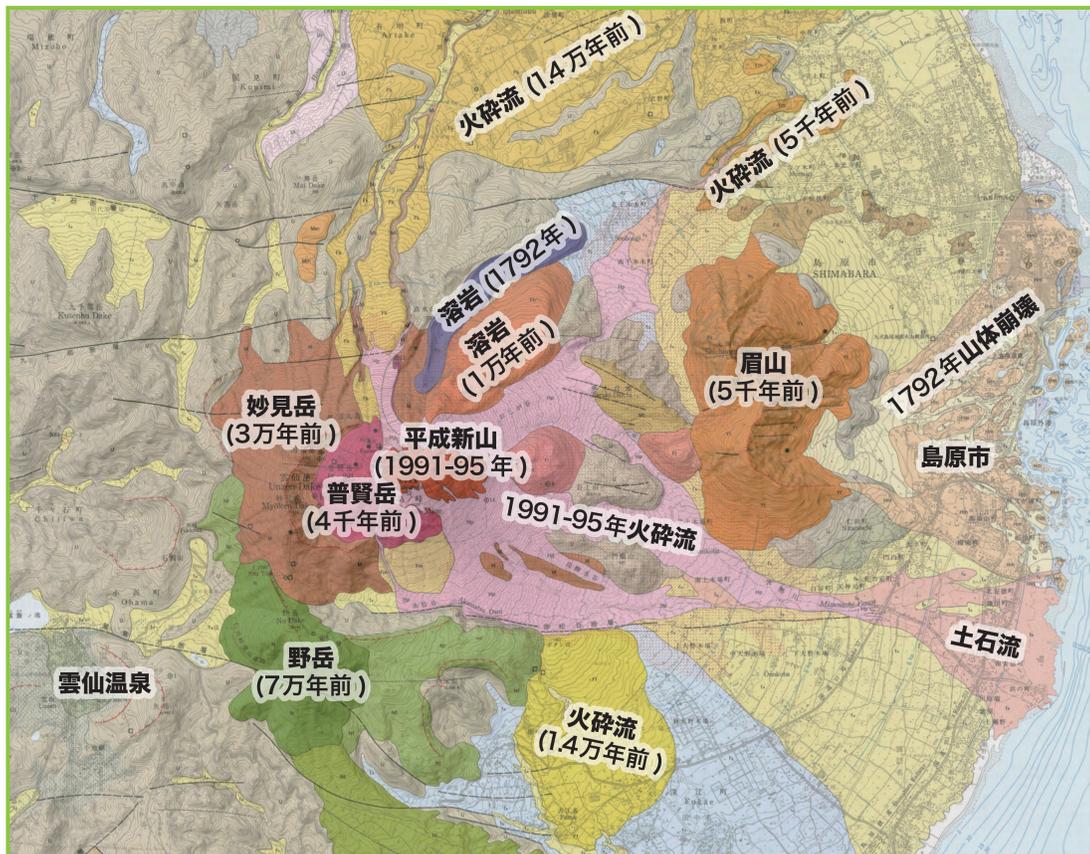


図1 火山地質図「雲仙火山地質図」(一部)に加筆

(cc) BY-ND



写真1 最近の平成新山 (2007年11月 及川輝樹撮影)



写真2 1991年5月29日の火砕流 (風早康平撮影)



写真3 南東側からみた平成新山と火砕流堆積物 (1994年10月 曾屋龍典撮影)

雲仙岳は、長崎県島原半島にそびえる活火山です。

平成噴火 (1990～95年) では、新しい溶岩ドーム (平成新山、標高 1,483m) が成長し、それまでの山頂 (普賢岳:標高 1,359m) よりも高い頂を作りました。溶岩ドームから高温の火砕流が山麓へ流下し、死者を含む甚大な火山災害を引き起こしました。その一方で雲仙岳は、温泉や豊富な地下水の源や、肥沃な農耕地になり、私たちに自然の恩恵を与えています。雲仙岳は、火山による「災い」と「恵み」の両面を私たちに垣間見せてくれる山です。

① 平成新山と火砕流

写真1 の山頂部のゴツゴツした岩肌の部分が、新しい溶岩ドームです。粘りけの強い溶岩ドームが成長する時に、その一部が崩れ落ちることで、火砕流となり被害を起こしました (写真2)。この噴火の時に放出された火山岩塊を展示サンプルとしました。表面がひび割れているのは、この岩塊が放出されたときに高温であったためです。

② 山麓緩斜面と火山の恵み

噴火で新しい山ができると、火砕流や土石流が発生し、山麓に緩斜面を作ります。写真3 の山腹から山麓に至る植生のない部分は、平成噴火による被害地域です。その周辺の田畑が広がるなだらかな斜面は、過去に火砕流や土石流が堆積した地域で、肥沃な火山灰土壌で覆われ農耕に適していて、人々の生活の場になっています。火山は災害をもたらすだけではなく、人々の生活の場を作っているのです。

③ 高くなれない火山

雲仙岳では東西に延びる複数の断層が、山頂部を挟む様に発達しています (図1)。噴火により雲仙火山の山体が成長する一方で、この断層群 (正断層) の活動により火山体の中央部が沈降し、雲仙火山の基底は地下 -1,000m の低い位置にあります。平成新山の標高は 1,483m なので、地下の部分も含めると雲仙火山の本来の高さは 2,500m 以上あることとなります。